

教職員の精神疾患を予防するための人事管理のあり方に関する調査研究

## 1. 事業の実施報告

### (1) 調査研究のねらい

教員のメンタルヘルス対策

教職員の精神疾患を予防するための人事管理のあり方に関する調査研究

近年、教職員の精神疾患が増加していることから、教職員が精神疾患に至った状況等について把握・分析し、教職員の精神疾患を予防するための人事管理のあり方について調査研究を行う。

### (2) 事業の実施状況

病気休暇（精神）から復帰した職員へ聴取り調査を行い、当時の状況（原因と考えられる事由等）、復帰時の配慮等をまとめ、取組み事例集を作成する。

- ①各教育事務所等から提出されている、病気休暇から復帰する際の『経過観察報告書』（H17～H20）をもとに、各教育事務所等とともに事例の選定及び人選を進める。

・事例の選定及び人選のポイント

地域、校種、年齢、性別、原因と考えられる事由等を考慮する

※原因と考えられる事由の例

環境への不慣れ（転勤1年目、新規採用等）、学校行事の負担感、家庭状況、学級の児童生徒保護者対応、職場の人間関係 等

- ②人選をもとに、聴取りを行う。聴取は、教育事務所等及び市町教委の協力を得て、教職員課が進める。

- ③当該者への聴取をもとに、取組み事例集を作成する。（※可能ならば、当該者の復帰当時の校長へも聴取を行う。）

・聴取項目例

- ・原因となった要因等病気休暇に入る前の状況について
- ・予防のために自身が留意すること、周囲に行ってほしい配慮
- ・治療中の状況、留意点
- ・復帰時の状況、留意点等

- ④平成22年2月中に、小学校6校、中学校6校、県立学校2校を訪問し、校長7名、教頭1名、教諭11名から聴取を行った。

## 2. 調査研究の成果（実施による効果）

- 病気休暇（精神）から復帰した職員及びその管理職からの聴取り調査を行うことにより、原因として考えられること、職員が感じた課題や背景、予防するための対応として次のような点を聴取することができた。

- (1) 原因として考えられること

- ・ 担当する部活動において成果が出ないことが精神的負担になった
  - ・ 研究のまとめを任されたものの、うまく進まず、不安と焦りが追い詰めた
  - ・ 初めての経験に苦勞するなか、家庭環境の変化により精神的負担が増加した
  - ・ 保護者からの厳しい要望を１人で抱え込んでしまったことが精神的負担につながった
  - ・ 転任して生徒との関係がうまくいかず、精神的に追い込まれた
- (2) 病気休暇から復帰した職員が感じた課題や背景
- ・ 職員の人間関係がバラバラであり、親しく話ができる同僚がいなかった
  - ・ 相談した同僚に「以前はもっとひどかった。今はまだ。」と言われたことで、話しくなくなった
  - ・ 早く復帰しなければとあせり、病状が十分回復していないまま復帰したため、再度の病気休暇となってしまった
- (3) 予防するための対応
- <管理職として留意すべきこと>
- ・ 日頃から挨拶やお互いに声をかけ合う等相談しやすい職場の雰囲気づくりに努めること
  - ・ 職員の仕事の進捗確認や状況把握を行い、表情や健康状況等が気になる場合は声をかけること、特に異動１年目である職員や初めてその分掌を担当する職員の場合は留意すること
  - ・ 職員の性格等をふまえ、共感的な助言を行うよう心がけること
- <職員に対して留意するよう促すこと>
- ・ 困ったことがあれば、一人で抱え込まずに上司や同僚に相談すること
  - ・ 趣味や運動等により気分転換をうまく行うこと

### **3. 今後の取組予定**

- 県内各市町教育委員会及び各学校に対して、各種会議での啓発を行うなどにより、今回の調査による成果の普及を行うこととする。